

令和 5 年度第 1 回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 議事録

日時：令和 5 年 1 0 月 1 3 日（金） 1 5 : 0 0 ～ 1 7 : 0 0

場所：府中市役所 4 階第一委員会室

会議要録	
次 第	1. 開会 ○市長挨拶 2. 議事 (1) 第 2 期府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について ○戦略の概要と人口ビジョンに掲げた推計値と実績について ○基本戦略 1 について ○基本戦略 2 について ○基本戦略 3 について ○基本戦略 4 について ○基本戦略 5 について 3. 閉会 ○副市長挨拶
○市長挨拶	みなさん、こんにちは。 令和 5 年度第 1 回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。 皆様方には、府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の委員をお引き受けいただき誠にありがとうございます。 現在、ご承知のとおり、全国的に人口減少、少子高齢化が大きな問題となっております。 本市でも、急速な人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域を創生していくために、令和 3 年 3 月に、人口の現状と将来の展望を提示する本市の実情に応じた今後 5 年間の目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた「総合戦略」と「人口ビジョン」を策定いたしました。 この総合戦略では、5 つの重点戦略を設定し、重点戦略を踏まえた目標を定め、それを達成するために施策・事業を実施することとしており、目標の達成に向けて、各種事業に取り組んでいるところでございます。 具体的な取組を申し上げますと、 戦略 1 の産業分野ではものづくりのまちとして、本市の経済を下支えしている製造業への生産性向上にかかる支援や農業のスマート化の支援などに新たに取り組んだところであります。 戦略 2 の子育て教育の分野では子育てをサポートするまちとして、府中版ネウボラの整備や教育現場における DX の推進、コミュニティスクールの推進などに先進的に取り組んできたところでございます。 戦略 3 の賑わいづくりの分野では市の新たな魅力を創出するために、府中天満屋へのイコーレふちゅうの整備や観光商品の開発、上下の芝生グラウンドや市民プールといったスポーツ施設の充実などのハード整備を中心に取り組んだところでございます。 戦略 4 の安心安全の分野では平成 30 年豪雨災害を教訓とした防災の強化や、上下地域における保健・福祉・介護・子育ての総合拠点としての上下地域共生交流センターの整備を行

	い、市民の安心安全の確保に努めているところでございます。 戦略 5 の DX の分野では市民総合アプリ My 府中の開発や公民館等の ICT 化、ドローン戦略などといった、市民生活を始め、行政や産業にかかる DX の推進を重点的に進めてまいりました。 これらの施策は、総合計画や総合戦略の将来ビジョンにも掲げている「しあわせ実感」の実現に向け、この間、強力に推し進めてきたところでございます。 しかしながら、戦略策定からおよそ半分の期間が過ぎ、当初の目論見どおりすでに事業が完了し、一定の成果がでているものもある一方で、なかなか取組が成果に繋がっていない事業があるのも事実でございます。 本日の会議では、総合戦略に掲載している各種事業につきまして、目標に対してのこれまでの実績、評価等、進捗状況をご説明させていただきます。 皆様にはそれぞれの知見からのご意見をいただき、今後の施策の見直しに反映させてまいりたいと思いますので、忌憚なきご意見をいただきますようお願いして、私の挨拶とさせていただきます。
○各委員挨拶	(省略)
○議長（渡邊委員）挨拶	令和 3 年 3 月に総合計画と合わせて、このまちひとしごと創生総合戦略を策定したところですが、その時に私自身が一番こだわったのは、もちろん行政ですので課題をいかに解決するかという、いわゆる課題解決型の計画づくりも大事ですけども、いかに府中に人を呼び込むかという観点からすると、やっぱり強みを生かした計画にしないと駄目ではないかということで、そのあたりをだいたい市の方々にもお願いをして計画を策定したところでございます。 本日はそういった中で、いろいろと政策が動いているかと思っておりますので、それについて忌憚のないご意見をいただければと思います。
議 事 （ 1 ） 第 2 期府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について	
○戦略の概要と人口ビジョンに掲げた推計値と実績について	
事務局	(説明は省略)
石川委員（商工）	人口ビジョンの最後のページの説明で、将来展望の人口の部分で、社会増減をゼロにするというのと、それから自然増減の改善ということで、合計特殊出生率を 2.04 まで上昇されるとなっているが、実際の市の統計上、10 月 1 日に発表されたのは 130 人ぐらい。0 歳から 1 歳が 137 名と 2 年連続ですごく低い数字を示しています。 この表の下のトレンドでいうと 2060 年には 1 万 9238 人になっている。確かに 15%改善するということで、目標としては 2 万 5000 人っていうのはいいが、幾らか高い目標を掲げ過ぎているのではないかと。現実、前は合計特殊出生率が 1.8 ぐらいの設定だったと思うが、それを 2 を超える設定にされている。しかも 2030 年以降はこれが続くという想定になっているので、その辺のめくろみについてご説明いただければと思います。 それが 1 点と、もう一つ今の社会増減の関係で、自然増減はトレンド通りいくということだと思うが、6 ページのところに自然増減と社会増減のグラフがある。下へ行けば行くほど自然増減が減っている。右へ行けば行くほど社会増減がゼロに近くなっている。社会増減がゼロトレンドとしては傾いているイメージはあるが、下にも沈んでいるので、その辺りからすると、設定目標も高いし、逆に少し改善を見るにしてももう少し、人口減っていくという想定の中で、いろんな施策を、検討された方がいいのではないかと思いますので、その点何かご意見があれば。

事務局	確かに目標が高過ぎたのではないかとこのころは確かにそうだろうと思いますけれども、まず、自然増減の 2.04 っていうのがあくまで理想と言うか、ある程度自然減を防ぐというためには、お 2 人が結婚してお 2 人の子供を産むという形で理想的な数値で机上の数値ということになりますがあくまでもこれは理想の形ということ。なかなか実現は難しいなというふうには思っています。策定以来、例えばコロナ禍があって、そこで出生の数も大分落ちたということもありますが、合計特殊出生率っていうのは今後市の課題ということにはなってきます。市としても子育て支援パッケージとして 3 年かけて子育て支援を子供の数の増加につなげようというような取組をしていますが、この目標値がこのまま未来永劫いけるのかということは、当然検討の余地もあるだろうと思っています。 社会増減につきましても同様、府中市の社会増減、特に社会減で言うと、大学がないので学生さんが高校卒業すると市外へ出て行かれる。就職は市内に企業があるので、ある程度戻ってこられますけれども、結婚や出産を機に外へまた出られてしまうというような傾向があるので、その辺に対する対策というのは必要だろうと思っています。 ご指摘の通り、縮小社会を迎えて、ある程度ダウンサイジングの行政とかも減っていくことを前提とした考えというのも進めていかなければならないとは思っています。社人研の全国推計が今回出ておりますが、市町村別の推計が今年度中には出るという見込みもありますので、その辺りも踏まえて、果たしてその縮小社会の対応でいくのか、それともあくまでも人口増でいくのかといったようなことも含めて、見直しはしていきたいというふうに思っております。
議長 (渡邊委員)	個人的には目標は高くあげたほうがいいのではないかと考えておりますが、その目標に向けて、じゃあ何をどうするのかというのが多分ポイントで、今日はその辺の議論になろうかと思っておりますので、いろいろとご指摘をいただければと思います。 それでは今日の本題の方に入っていきますが、今お話がありましたように、人口減少に対する抑制というのが進んでいなくはない、つまり社会減については大分持ち直してきているけれども自然減についてはなかなか厳しい状況があって、それに対してどういう手だてを打っていくのか、より効果的な施策へと見直していく必要があるということになろうかと思っております。そういった意味で今日は皆さんにお時間取っていただいて、この場でこれまでの取組について評価検証しようということになった次第です。 それではここからは 5 つの基本戦略がありますので、戦略ごとに評価検証を進めて参りたいと思います。
○基本戦略 1	
事務局	(説明は省略)
沖田委員 (金融)	私どもは府中市と連携協定みたいなものもあるのですが、例えば、1 番の専門人材の活用促進というところにおいて、我々もお客様から相談受けてプロ人材の紹介といった部分では結構な実績があるわけですが、この辺はもう少し早く気づけばよかったなと思います。同じことを同じ方向を向いてやっているというのがありますので、もう少し密にやっていたら K P I の数字にも入ってくるのではないかと思います。
議長 (渡邊委員)	1-1 のシートの中に製造業 D X の話があって D X による課題解決支援みたいなことが書かれていますが、これももちろん大事なことでけれども、おそらくやらなければいけないことは、D X で今までの仕事を置き換えるっていうことを考えると行き詰まるので、D X を導入することによって、全く

	違う働き方にしていくという、そういった意識改革が大事だと思っているので、そういった意味では、もちろん戸別訪問して、ご支援いただくのもいいですけども、D Xを導入することの意味みたいなところもしっかりと企業の方々にご理解をいただいて、かなり競争も厳しくなっていると思いますし、今の円高で結構大変な状況もあるかと思いますが、そういう中だからこそ、D Xを活用して、思い切って今までの製造ラインを見直すとか、或いはやり方変えるとか、そういったことも手がけていただければと思います。
石川委員 (商工)	大学との共同連携の部分ですが、これが遅延、評価としては△ということで、うまくいっていないことがあると思うのですが、大学連携自体はまだ始まったばかりで、お互いが知る段階で、どういう研究が大学でなされているか、或いはこちらが要求しているニーズがどこにあるかいうすり合わせがまだ十分できていないということもあって、なかなか進まないのではという気はします。 ただ細く長くではないですが、長期的に見れば、お互いの理解が進めば、もう少し大学とは連携できるのではないかと考えております。 それから、2 番目のリカレント教育。これは厚労省も同じような制度を作られてハローワークを窓口に行われていますが、ここに書いてあるその通りで、小規模事業者は時間中にそういうリカレントするための時間を割くということが非常に難しいというのが現実です。本当にそこを割くということになると、言い方おかしいですが、人材の手当も含めてやるのか、或いは何か土日にしたときには別の支援があるといった工夫がないと、小規模事業者はリカレント教育が必要だと感じていても実態的にはできないというのがあったと思います。
議長 (渡邊委員)	今のリカレント教育でいうと、コロナ禍を契機にオンラインであるとかオンデマンドであるとか、いわゆる対面式じゃないリカレント教育も出てきていますので、そういったことをうまく使いながら、学びたいときに学べる環境を提供していくのも大事なかなと思いますので、何かそういったところも少し着眼しながら取り組んでいただくと、リカレント教育を少し進むのかなと思います。
松宮委員 (広島県)	I T 企業の誘致のところ、各自治体が行き詰まっていることだと思いますが、コロナ禍を契機にしてテレワークも普及してきたという中で、サテライトオフィスやオフィス系の施策としても取り組んでおられるところ、なかなか実際には府中市の方にこられる企業が見当たらないという状況ということで、移住定住の話でも近くなってくるのですけれども、その制度はおそらくこの自治体もそろえているので、やはり環境というか、府中市ならではの魅力というか、そこをどういうふうによく訴えかけていけるのがポイントになるのかなと感じました。
議長 (渡邊委員)	おっしゃる通りで、もう多分全国どこでも今シェアオフィスだのワーキングだのってやっているとあるので、そういう意味では府中市のワーキングを選んでいただくというところのポイントがとても重要だと思うので、やっぱり静かな環境だとか、川遊びができるだとか、すぐこれって浮かばないんですけど、やっぱりそこを少し打ってかないとなかなか競争に勝てない。
吉原委員 (保育)	若者を引きつける働く場を作るという目標に対して、その若者の生の声とか意見について、誰かお聞きになられていたり、どれだけ効果があったか知りたい。
石川委員 (商工)	先般、スポーツ推進担当部長の方からご説明いただいたスフィードの件がまさにそれだと思うのですが、スポーツをしたいから府中へ来られる。それが住みたい理由になって、受け皿となる企業も何社があれば、収入も得ながら女子サッカーができる。 そういうことがあるので、多分考え方は多様だけど、事例としてはすでに発生しているというのをお話いただいたところです。
議長	おそらくP Rの仕方が大事だと思っていて、何を作っているのかということよりも、どういう意味が社

(渡邊委員)	会的にあるのか。つまり、靴を作っていますではなくて、靴を作ることによって健康だとかスポーツだとかそういうことに寄与しているみたいな、どちらかという若者の関心からすると、自分はこういうふうに関われるかという思いは結構強いのではと思っている。 うちの会社は何作っていますとか言われると、そうなんだで終わるのですが、これを作ることによって世の中にこういうふうに関与できる。そういう貢献がいい、みたいなところがあるかと思うので、そういう意味ではもしかしたら情報の出し方で、若者の食いつきが違うのではないのでしょうか。 大学教員として若者の間に入っている身からすると少し感じているところです。
糸永委員 (報道)	5 番目のスマート農業の導入アグリビジネスの推進のところ、実際に申請件数が 3 件であるんですが、現状これ順調となっているが、具体的にどういうことが起きているのかっていうことを教えていただきたいと思います。 また、この先の議論の中にドローンのまちづくりをいつまでするかっていうところもあるかと思うんですが、けれどもこういったところのスマート農業の支援とか、そういうところでの親和性とか、その辺りも伺ってみたいと思っています。
小川委員 (農業)	現在、池田牧場は家族 2 人だけで 90 頭の牛を飼育していて、あと乳搾りをしていて 365 日のお仕事で 24 時間体制でしているが、これが実現できるのは、搾乳ロボットといわれる乳搾り専用の機械を導入しておりまして、それによって 24 時間牛はストレスなく、乳を絞ることができています。本来なら酪農家が 1 日 8 時間ぐらいずっと乳搾りを手でしていたのが、ゼロになってその他のこともできるようになったのが、池田牧場での事例です。 あとはアスパラ農家の方とかが、確かこちらのチャレンジ農業の制度を使われて、上下町に参入されていますので、そういった方々と農業のグループを作って、周りにおられる企業と一緒に飲み会をしたりだとか、そういう交流の場に新しく参入された方々が積極的に参加されていてにぎやかになっています。
議長 (渡邊委員)	とても夢があるというか元気になるようなお話をありがとうございます。おそらくそういった取り組みが必要だろうと思います。DXとかスマートとかどういう意味があるのだろうということを、実際に動かれている方おられるので、その事例とかうまくいっていることをみんなで共有していくことが、すごく必要なのかなと思いました。 どうしてもこういった評価は、ネガティブチェックになりがちですけど、こういうところはうまくいっているといったこともどんどん蓄積して市民の方々に共有していただいて、府中って面白いことをやっているなという、そういった誇りに繋がるような評価も必要だと思いますので、是非ともそういうことも取り組んでいただければと思います。
○基本戦略 2	
事務局	(説明は省略)
議長 (渡邊委員)	非常に重要なこれからを担う、府中を考える上では重要なテーマですが、比較的事務局は課題を言っているのですが、個人的には 1 枚目にある子育てステーションの利用者数が令和 4 年で 1 万 1000 人を超えている、当初の目標は 1 万人行けばいいと思っていたのが、大きくもう 1 万 1000 人を超えている。これは目標を見直したほうがいいのではないかとこの状況になってきていて、この辺が安心な子育てに上手くくつつくようになると、うまく回るのではないかと個人的にはお話を聞いて思った次第です。
石川委員	今、渡邊議長が言われた通り、相談増えるっていうのは、そういう窓口があって利用しやすいとい

(商工)	うことでいいことだと思います。 ただ、「子育て教育一番 府中で育てたい」という意欲をかき立てるような目的を持たれているのであれば、本来だと子育て世帯の転入者数が、今年は何人でしたというような、府中で育てたいとか、府中で教育を受けさせたいといったニーズが明らかに数値化できるようなものをK P Iとした方がいいのではないかと考えています。 それから、子育てステーションについて、都市部では当然近所の人と会話がなかなかできなかったということありますけど、逆に周辺部になると、近所の人がいっぱい教えてくれて相談しなくてもいろんなことが情報として入ってくるという環境もあるので、件数は件数でいると思いますが、それだけで子育て教育一番ということはなかなか測りづらいのではないかと考えています。 それと 2 枚目の教育のトップランナーの取組でK P I の貢献度の評価が低いところが多いですけど、教育は長い期間かけて、極端に言うと、幼稚園保育所から大学、或いは生涯学習、長い期間かけてやるものだと思うので、例えばこの 5 年間に成果が出なかったから、もう取り組まなくていいというような、短絡的というか短いスパンでの判断はあまり正解が出る前にやめるということがあるのではないかなという印象を受けました。
議長 (渡邊委員)	個人的には府中っていうとコミュニティスクールにすごく積極的に取り組まれている印象があって、取り組まれる方も私はよく存じ上げているのですが、今日はP T Aの会長であり、明郷学園のP T A会長ということですので、そういった意味で忌憚のないご意見をいただければと思います。学校の置かれている状況だとか、或いはP T Aから見たときに、どうなのだろうとか、こんなところはすごく頑張っているよとか、そんな話があったら少しご紹介をいただけると幸いです。
小林委員 (P T A)	今回初めて会長をやらしていただいて、実際、保護者は結構C Sの取組を知らない方が多く、C Sって何、みたいな感じなので、今年度は大々的に出していこうということをP T Aでは取り組んでいます。 朝でも登下校の中での見守りとかでもそうですし、すごく地域の方に支えられている。明郷学園は特に少ないので、それでやっているところもあるが、それに気づいていない保護者もすごく多い。それが課題で、本当に集まりに行ってみて初めて知った、こんなこともしているのかと。 府中で働くために、府中で企業を起こした方とかを呼んで講演会とかも考えていますが、保護者は知らないというのが現状です。そういうところをもう少し保護者もわかるといいのかなって思います。すごく難しいと思いますが。 それを課題としてP T Aでは考えているので、C Sの取組というのを明確にできればと思います。
小川委員 (農業)	私も現在 3 人の子育てをしております、C Sで小学校時代、役員もさせていただきました。 上下エリアは保護者が非常に積極的な方が多く、「C S 活動あるよ」って言われたら「はい、やります」みたいな、みんなで一致するようなエリアですので、地域性も少しあるかとは思いますが、子供がC Sで出会ったおじちゃんおばちゃんに対しての思いや意見を親にぶつけてくる。地域の近い距離のおじちゃんおばちゃんなので、あそこのおじちゃんがこう言ってきたとか、距離が近いエリアからできるC Sの保護者との対応っていうのもあるのかなと思う。 あと、中学校になってくると、一気に思春期に入ってくるし、上下町の場合はちょっと離れたところに行かれる小学生の子もいますので、そこで少し、行きにくいとか、そういう問題が出てきて、この上下のスマイルルームっていう支援学級ではないですけども、行きづらくなったらこの教室でみんなでリモートでもしようっていうスタイルだと思いますが、そちらを確立されたのは、悩みを抱えた状態の、今まで小学校ではとってよく見てもらったのに中学校でちょっとボンと離れたような感覚

	に陥るお子さんにとって、それをセーフティーネットとして使われるお子さんも多いのでいいことかなと思いました。
吉原委員 (保育)	ネウボラは本当に保護者の方は有り難く利用されていて、どんどんその認知度も高まって、活用してくださっているのが現実的にわかります。 ただ、先ほど石川委員が言われたように、子育てとか教育とか、長い時間かけてどこが結果なのかかわからない。子供の成長も心の状態もどんどん変わっていくので、何を目標にしてというのはわからないですけど、CSにしてもこのネウボラにしても、ほんの1人でもいいから、「よかった」、「ホッとした」、「府中市でよかった」とか、「今日楽しいな」とかいうのがとにかく増えていくことを目標にしたいなと思いながら私はしています。 本当にこの分野はいい感じでずっと成果も出ていますし、ますます継続して、工夫して、ちょっと改善しながら続けていきたいなと思っています。
議長 (渡邊委員)	非常にうまく動きつつあるということはわかる一方で、個人的には上下高校の問題はどうなるのだろうと心配なところがあって、そういう意味では、もちろん高等学校なので県の問題でもありますし、ここの問題でもあるのですが、やはり地域の学びの場としてこの上下高校をどうするかっていうのは今後も引き続きご検討いただきたいなと思います。上下の町は結構元気がある町だと思っていて、町としてもこの高校をどう考えていくのかっていう気運が今すごく高まっているので、それを皆でバックアップできるようになればいいのかと思っています。
○基本戦略3	
事務局	(説明は省略)
高橋委員 (観光)	この3の前半部分についていろいろお話をさせていただければと思うのですが、まず1のイコーレFUCHUの推進ですけれども、イコーレも非常に今利用度が増えておりまして、道の駅、天満屋、また今後はプールができるという地区になろうかと思います。 この地区に集まった人を周辺の観光施設なり、いろんなところへどう導いていくか、というのが今後の大きなテーマになるのではというのが一つございます。 天満屋の裏の筋については、歩行者とそれから車の往来とがあるわけですが、企業とか事業所もありますので、なかなか車をストップするのは難しいと思いますけれども、さきほどのウォークブルのまちづくり、この辺が一つの焦点になるのではという気がしています。ここをどうやっていくのか、歩行者と車が共存するのか、別のルートを模索するのか、これが一つの大きな今後の課題になっていくのではないかと、という気がしているのがまずこの1の中の一つの課題であるのではないかと思います。 次の②の新たな都市魅力の創出ですけれども、ここの中で先ほどのウォークブルなまちづくり、これが一つの今後の大きな課題と指針になってくるのではないかと。ランドデザインの中でのこの地域の大きな一つの指標になってくるのではないかと思います。 次のオンリーワンの観光ですけれども、①のライフスタイルツーリズム、このテーマに沿って今、観光協会も観光行政と一緒に、観光の開発等をやっているのですが、②の協和地区っていうのが、皆さんはどうしてここなのかなって思っている方もおられると思うのですが、ちょうどこの府中の中心地と上下町をつなぐ中間地点といいますか、何もない地域になっています。 上下にこの前も9月のNHKのクローズアップ現代で、インバウンドの伸び率が全国7位という状況が放映されました。これは、広島から上下に来られても数時間で上下を立て福山駅なり、広島空港に行かれるというルートなので、ここを何とか府中方面に誘導できないかなというので、

	一つはこの協和地区の開発が必要ではないかということで、今、地域の人たちと一緒に情勢づくりをしているところございまして、近いうちには、それがモニターツアーとして公表できるのではないかと考えております。 その流れとして、②のまず恋しきの活用ですけれども、やはり府中の一つのシンボルとしては恋しきの建物が有用だと思ひまして、ここにインバウンドをつなげていくという方策というのを今考えておりまして、ここで何をやるのか、どういったことをすれば外国人の方が来てくださって、この周辺の町並みに繋がっていくかというのを、今作り上げているところでございます。来週から今月中にはある程度方向性が見えてくるかなというふうに思います。 なかなかこれまで観光に目が向いてなかった府中市ですので、新たに観光地づくりをするのはいろいろと大変なところもありますけれども、まずは選ばれる府中市、観光地を目指してその醸成づくりをしていくというのが一つのテーマとなっております、そうしたところで作っているのが現状です。 先ほど事務局の方からの話もありましたように、教育旅行というのが一つございます。 これは府中市内のものでづくりの産業、企業がありますので、コロナ禍もあって、学校によっては県外、それから海外へ行く修学旅行が減っていましたので、そこを何とか平和都市広島への訪問と府中市のものでづくり産業ツアーを引っかけて、何とか府中に呼べないかなということで行ったところ、コロナ禍もあってキャンセルも多かったのですが、これまでに大体 800 人ぐらいの児童生徒が県内外から来ていただいております。11 月の初めにも東京都から約 2 百名あまりの方が府中市にものでづくりツアーでやってきてくださいますが、おそらくこれが最後になるのではという気もある程度しているところなんです。というのがやっぱりコロナが明けると、都心部或いは海外へといった修学旅行になりますので、ここをどうやって今後も府中市にこうしたものでづくりツアーをつなげていくかというところで、修学旅行、教育旅行だけではなくて、一般の人たちにもしっかり P R していくことが必要ではないかなというのが今後の一つの大きな課題というふうにとらえております。こういったところを模索しながらやっていきたいと考えています。
石川委員 (商工)	一つは高橋委員言われたとおりで、府中だけということではなくて、地域の連携ということも観光には重要だと思います。それともう一つはターゲット、インバウンドをターゲットにした観光と国内を移動する観光、そこは少し分けたほうがいいのではと思っています。 例えば N H K の放送の中で、2019 年に対して 2022 年が、第 7 位の伸び率が高いということでした。外国から来られる方は、我々の観光と違って、時間軸が全然違うようで便利とか不便とかいう感覚がないような話も出ていましたから、インバウンド向けの観光と国内向けの観光で目標を分けるのもいいのかなと思います。 それからウォークアブルなまちづくり、天満屋の裏の道という話がありましたが、例えば日曜日だけ試みに歩行者天国にチャレンジすべき事業かなと思いました。 それから公共交通の関係で、チェックのところが△になっている 4 番目の乗り方教室、このあいだ明郷学園でやられていましたよね。公共交通、特にバスとか電車について言えば、小さいときから乗り付けてなかったものは、成人してから乗るかという、公共交通、特にバスは遅れてくるのが当たり前でイライラしてだんだん乗らなくなるということで、小さい時の公共交通へ乗る教室とか体験、これは継続的にやらないと、大人になって乗るというケースはほとんど見られないと思っています。だから急激に減ったのは、マイカー、自家用車が移動手段となって乗り始めた時の子供は当然車で移動するので、だんだん公共交通に乗らなくなる。都市部は便利がいいので乗り続ける、

	自家用車を使わないケースが多いのですが、地方だと自家用車に圧倒されているという状況なので、さっきの教育にも繋がるのですけれども、長い期間かけて習慣づけしていると、知らないうちにちょっとした距離でも、ここは公共交通でバスに乗ろう、電車に乗ろうということがあるので、こういう取り組みは是非とも継続をしていただきたいなと思います。
糸永委員 (報道)	3 番の恋しきと翁座の保存活用ということで、翁座が新しくなったら、箱の中に何が入って、どうなっていくのだろうというのがすごく気になっていて、先ほどのインバウンドってこともありますし、いろいろ考えてみたら、役者さんとか劇団とかは小屋にこだわる人がすごく多くて、東京とか各地にいろんな劇団とかあるので、人気のある小劇団とかが入ったらどうだろうか、そういうところにもアピールしたらどうだろうかとか、どんどん大衆演劇の火も消えてきているので、ここだったらできますよっていうのを人気のところにアピールしてみるとか、また、体験ができるっていう面で、この舞台で何かできないだろうか。歌舞伎を見たい人は外国人なら京都行かれたりすると思う。でもそれはただ見る側だけなので、体験まで含めた何かヒントがあったらいいなって思いながら、この中でどんなことが起きていくのだろうっていうのをちょっとワクワクしながら想像するところです。だけど、これができてからではなくて、これから改修するっていうときに、あなただったらどうしますか、そこで働く人をリクルートするっていうところも踏まえた中で、ここをあなただったらどうしたいっていうのをたくさんの皆さんの意見をいただけるような見学とか発信とかっていうものがあればいいと思います。 ただ単に、できました、やりました、っていうのだと、マスコミの立場からすると 1 回の放送になってしまうのですが、継続性があるとストーリーになるのでいろんなことが描けるのではないかなと思います。また、恋しきに来る方と分けるのではなくて、そこがワンセットになって回遊できる形になれば、いいなと思います。 また、それも来る人が何となく想像の上で、割と動きやすい何十代以上というようなところを決めるのではなくて、本当にまだ 10 代とか何十代とかっていう人のイベントも翁座でできるのかどうかとか、世代も幅広く考えながら、また食べ物とセットでその魅力を惹きつけるというような、そういうことが生まれたら私も何度も足を運びたいなと思います。
小川委員 (農業)	オンリーワンの観光について、池田牧場では一般公開を現在しておりまして、非常に県外の方も多い状況ではあります。ただ、所詮夫婦 2 人でしている一般公開ですので、昔は家族 4 人でしていた時は乳搾りの体験まで、バター作りや餌やり体験、乳搾り、哺乳体験といった、そういうパッケージにした状態で提供できていました。 池田牧場は世襲制ではないので、もしこのフィールドを使って、体験を土日受け入れて皆さんにっていう方がおられるのであれば、全然どうぞどうぞっていう感覚を持っていますので、そういうのがオンリーワンになるのではないかなと思います。農業方面では特に、実際の農家さんは 365 日働いているので、ちょっと手が空かないって言ったら変ですけど、その余地を作るところが難しいので、そういうところを、私がそのフィールドでやってみたいですっていう方が、若い方だろうがご年配の方だろうがおられるのであれば、場所提供ができるような仕組みが今後あった方が、より多くの方を重点的にお迎えできるのではないかなと思います。 翁座の保存についてですけど、毎年上下中学校さんが上下町でできる観光プログラムっていうのを題材に作られていまして、本年度がまさに翁座を利用されて、インバウンド向けになるのですが、海外の方が翁座に来られて、そこで着物を着て写真を撮られて、お抹茶をたていただくっていうパッキングを学生さんが作っていて、実際に 12 月に開催されるようですけど、そういうのはインバウンドだけじゃなくて保護者もやりたいということも実は言うておりまして、そういうのも、子供たち

	は 3 年生で卒業してしまうのですが、それを継承してくださる、面白いなって言って引き継いでくださる会社というか観光促進グループみたいなものを外部でもいいので作っていただけたら、持続して発信し続けられるようなまちになるのではないかと思います。
市長	(ここで退席するにあたり一言) 本当にいろいろご意見をいただきありがとうございます。 活発なご意見ばかりで参考にさせていただくことも随分あったと思います。 経済の方についても先ほど沖田委員から連携の話もしていただきましたし、観光にしても行政だけで考えるのではなくて、色々な各所と色々な連携をしながら取り組めることが随分あるのではないかと考えておりますので、引き続きご意見いただければと思います。
松宮委員 (広島県)	施策でいうと 4 番目で、プロジェクト四つめの人との繋がりのところですが、府中出身の方のネットワークの構築っていうのは未実施ということです。これは県全体でも移住定住というのは取り組んでおりまして、特に県の場合ですと首都圏からのっていうのはかなりウエイトを置いてやっているところありますけれども、府中市がどこのエリアを対象にするのか、首都圏なのかそれとも関西の方なのか、そういったところの取組の方向性といえますか、そこも一つ考えてみるのもいいのではないかと思います。例えば、もし首都圏であれば、せっかく NEKI というアンテナショップもあるのでそこに訪れてくる人から何か繋がりができないかとか。おそらく、移住定住というのはまずはご出身の方なり、縁がある方が中心になってくるかと思うので、そういった方にどういう情報を届けるかという中で、一つとして NEKI とかに来る方っていうのは関心があったりする方ですから、そこを何かきっかけにできないかなと思いました。
議長 (渡邊委員)	今お話あった、どこから誰引っ張ってくるのかが多分一番大事なことで、皆さんのお話から 1 個思ったのは、最近の学生ってインターンシップと言って、就職の前に就業体験に入りますけど、これがかなり積極に行われていて、おそらく府中市さんの企業さんもやっているのではないかなと思うので、ワンデーとか言わないで、1 泊 2 日のインターンシップやってもらって、府中に泊まってもらう。もちろん府中焼きは食べるとか、いろんな経験もしてもらうとか。そういう意味では、やはりその企業に入るってことなのですが、従業員の方がそこで働くときにどういう暮らしがあるのかっていうことを多分セットで見えてくるはずなので、府中ってこんなに面白い会社があってすごく住みやすいっていう、その住みやすいっていう体験を、むしろその観光的な側面から考えてみたらどうでしょうかっていうところはあるかと思います。 おそらく皆さんも出張とか行かれて何が楽しみかって、もちろん会議も楽しみですが、アフターミーティングの何食べるなり飲むっていうのが結構楽しみだと。多分同じようなことがインターンシップで仕掛けられると思うので、そうするとかなり明確に人を引っ張ってこれるのではないかなと思いますのでそういったところも考えていただければ、複合的に物事が進むのではないかと思います。
○基本戦略 4	
事務局	(説明は省略)
小川委員 (農業)	4-3 の②、地域防災力の強化の 1、マイタイムラインの作成普及ですけども、小学校の時点で小学生が必ず家に帰って保護者と一緒になることによって、保護者も改めて見直しというか、きっかけになりまして、それを見ていた親戚の子が府中市って災害が少ないのではってということに気づいて、先日家を買おうかなっていう話まで発展しました。 なので、改めて住んでいる人が、災害は確かにあるけれど、かなりリスクの少ない市だになっていうこ

	とを感じていただけるような発信になるので、ここは全世代に伝えて、みんなで実施して、価値をみんなで共有できたらと思います。
議長 (渡邊委員)	非常に良い方策だと思いますし、私のところも学生と一緒にやらせたことがありますけども、まず、地図が読めなくて、場所がどこかわからないという致命的なところから多分始まると思いますので、そういう意味では学校教育の中で取り入れていいアイデアだと思いますし、地域の防災教育だとか、そういったいろんな観点で進めるといいかなと私も思いました。
議長 (渡邊委員)	私の方から、資料の 4 の 3 ページの 3 番、支え合うコミュニティづくりの事業項目の 4 番に協働のまちづくりの推進事業の件が書いてあって、いろいろと悩まれているようですけれども、実は私は福山市の地域コミュニティの再生のプロジェクトに 3 年ぐらい関わらせていただいて、いろんな議論にも関わらせていただいたのですが、これからは一律であげるっていうよりかは、頑張ったところにはプラスしてあげるっていうのが個人的にはいいのではないかと思います。 ただ、そうは言っても、やっぱりベースとなる、例えばその地域の防災について頑張っていただくとかはありそうなので、そういった一定額の部分も持ちつつ、そこから上の、うちの地域頑張って良くするっていうところは、手挙げ方式でプラスアルファをあげるとか、そういうことがいいのではないかなと思います。この制度設計はいろいろと考えていただくのがいいかなと思いますので引き続きご検討いただければと思います。
石川委員 (商工)	フレイル対策について、ここに書いてあるのは、それはそれで進めていただければいいと思っています。 直接ではないが、高齢者女性に働き続けていただけるようにすることに関して、実際に介護が必要になられた方が家庭におられると、施設に預ける場合は別ですが、そうでないケースだと大抵の場合は、定年 60 ぐらいになられて退職して、実際はまだ働けるのに介護に入って労働力として活用できなくなる。比較的この地域だと女性が多いですけど、そうすると女性の方も働くことが続けられなくなる。パートとかそういうのはあるかもしれないが、ずっと 1 日 8 時間働くような働き方ができないケースもあるので、それはこの地域全体からすると、人材不足と言いながら、結局人材不足を助長するような形になっているので、フレイルはフレイルで長期的には必要なことで、将来の介護者を出さないことでも重要なことですけど、今すでに抱えられている方がおられますので、そこをもう少し手厚くして、府中にいくと、ちょっと預けられて、8 時間働けるよというような、そういう部分もいるのではないかと。特に人材不足のことからすれば、高齢者、女性の働く場を確保してあげる、保障してあげるということが必要なのではないかと思います。
議長 (渡邊委員)	最近イコーレで一時預かりを始めたという話を聞きまして、その介護版みたいなものがあって、一時介護じゃないですけども、その時ピンチヒッターでやってもらえるだとか、新しい仕組みがいろいろ検討できそうだと思いますので、またその辺はご検討いただければと思います。
沖田委員 (金融)	この計画にないところで全く関係のない話ですが、私どもが今一番力を注いでいるというか、せざるを得なくなっているというのが、承継問題のところなんです。この本計画は攻めの計画ということで全くございませんが、後継者不足というところで今相当ニーズがあるところで、最近でも結構マスコミが報道している。 我々のグループなどが企業さんの成長戦略を考えて株を全部取得しましたとか、この地域同士の中小企業の M&A。これも半期に 1 件 2 件成約できるかぐらいのかなり体力がいるところですけど、この町にとっては今一番必要なくとじやないかと思っておりますので、ただ、持続可能などというところで、ここで言わせていただいたのですが、ぜひ次期計画とか見直しを考える中で、かなり重

	要な部分になってくるのではないかと思います。
高橋委員 (観光)	4-1の安定した医療提供体制の構築の中の4番ですけど、このオンライン相談オンライン診療というのは中山間地域においては、今後もっともっと大事になってくるのではと思います。特に、若い子供さんを持つ親御さんから、出産を控えた方とかはいろんな意味で不安もありますし、また一人暮らしの高齢者も増えてきますので、見回り隊というのもしょずつ増えてはきているような地域づくりにはなっておりますけれども、このオンライン相談オンライン診療受診っていうのが今後重要になってくるのではないのでしょうか。大したことなくても受けることができるシステムづくりをきちんとおいた方が、安心安全なまちに繋がっていくのかなと思いますので、ここも大事だと思います。
議長 (渡邊委員)	広島県さんはじめ府中市でもDXをかなり進めることになっていきますので、そういった意味ではこういったオンライン相談とかオンライン診療がその暮らしの安全に繋がるのは間違いないと思いますので、そういう点からすごく重要だと思います。
吉原委員 (保育)	私も医療と子育てというのは、必ず皆さんどの家庭でも抱えている問題で、たくさんいろんなシステムがありますが、やっぱりそれをどれだけ使っていただくか、どうやって使ってもらうか、どう伝えるか、どう使いやすくするかが大事。 このオンライン診療も高齢者の方にオンラインとなれば、うちの親は無理だなとかと思いますが、でも私も介護の域に入ってきて、いつまで仕事ができるかっていうのも切実な問題になっていきますので、どうやったら使えるか、どうやったら使いやすいかを工夫しながらいけたらと思います。
議長 (渡邊委員)	直接関係するかどうかですが、さっき事務局の説明の中にライフステージ化の取り組みがなかなかあっていう話があったところとも多分関連してくると思うのですけども、例えばイコーレとか、集まるところには集まっているので、そこでこうなんか仕掛けるのはありなんじゃないかなと思っています。 それで先ほども、その特定診療受診率が低いってのがあるのですが、これも行ってくださいって言って多分難しくて、集まっているところにうまく出張ってくだとか、集まる機会に行ってもらうだとか、そこは少しセットで考えた方が、おそらく取組としてもいいのではないのでしょうか。おそらく担当課の方もかなり苦労して、どうやったらいいのかということで色々PRとか考えられていると思うのですけども、意外とほかの部署と連携したらうまくいきそうだとかが多分あると思うので、是非ともそういう横連携をご検討いただくとすごくいいのかなと思いました。
○基本戦略5	
事務局	(説明は省略)
松宮委員 (広島県)	DXの関係で意見といいますか、まず、DXの推進は全国というか国を挙げての取組ということにはなっているわけですが、特に行政の面での人材というのをどう確保していくか、これが大きな課題で、県でもデジシブといいまして、県と各市町が一緒になって取り組んでいこうとやっているところです。専門人材を単独の市町で確保するのは非常に難しいという話もありますので、何とかそこを共有できる仕組みができないかと取り組んでいるところです。 また、CDOの方にお集まりいただいて好事例の横展開とかそういったこともやっておりますので、ここは意見といいますか、県も市町と一緒に取組をしていきたいと思っているのでよろしくお願いします。 また、マイナンバーカードにつきましても、かなり国の方で旗振りしてきたところですが、府中市におかれましてもいろいろ住民の方への周知などいただきありがとうございました。
小川委員	ドローン戦略、ドローン関連ですけども、農業分野で他の都道府県さんも悩まれていると思うのが

(農業)	害獣駆除。ジビエ産業として猟師さんを新たに育成して、その猟師が犬ではなくドローンを使って遠隔操作とともに安全的にジビエを確保し、それを加工までして販売までできたら 6 次化がかなり独自の素敵なシステムとなる。なおかつ、結構ジビエをやってみたいっていう若い方が多いです。こだわっている方というか。でもそういった方々になぜしないのって聞いたときに、加工施設の許可がおりないし、高いからっていうお話を本当に皆さんから聞くので、その辺の、やりたい人手挙げてから始まって、教育から始まると思うけども、そういうサポートがあった場合、知る限りでは移住してもいいよっていう若者で 20 代後半の方がおられるので、ドローンを農業と紐づけて、また 6 次化と紐付けて社長を作るようなシステムにつなげることができたら、独自の施策としては面白くなるのではないかと思います。
議長 (渡邊委員)	まさしくそこに尽きると思うのですが、要するにドローンという道具をどう使うのか、多分使ったときにはまたそこで許可がおりないとかいろいろあると思うのですが、そこはそこでまた取り組むべきだと思います。やはり何に使っていかってっていうそのアイデア出しがすごく大事なかなと思ったので、今すごくいい意見だと思いました。
糸永委員 (報道)	ドローンで害虫駆除ということも、それを府中から全国に発信ということになれば、視察にいろんなところから来て、その時にはちゃんと今まで 1 から 5 まで議論してきたコワーキングスペースもありますよとか、お試しで宿泊するところもありますよとか、恋しきでちょっと過ごすこともできますよっていう何か一つ核になるものがあれば、これを 1 から 5 まで一つずつに分けるのではなくて、全方位的に活用できるのではないかなと思っています。実際に私もドローンを去年の 12 月から免許制になりましたが、その前に自分で取っていろんなところに行くのですが、なかなか飛ばせる環境がないので府中市はいいなと思っています。また、広島県の中に全国で一番の農業散布の技術を持っているところがあって、それを広めている営業マン全国一位の人がいたりするが、その方も次は皆さんの課題となるのはイノシシの被害であったりとか思われているので、もっとこういうことができますよっていう情報発信と、その地域と結び付けるといった仕組みがあれば突破口になるのではないかと思います。
○全体を振り返って	
石川委員 (商工)	今、糸永委員がすごくいいこと言われたので併せてですが、単独で考えるのではなくて、他の事業いろいろ組み合わせによって効果が出るのではないかと思います。 まさに我々も常に思っているのですが、府中だけでやって効果が出るケースと、さっきの観光みたいに他の市町と一緒にやって効果が出るものもあるので、せっかく、どこの市町もこういうのを作るわけですから、広域的にやった方が効果が出るものについては、積極的に連携を図るということも検討していただければいいかなと思います。
吉原委員 (保育)	すごく個人的なことですけど、私も池田牧場さんが大好きで、私は子供がちっちゃいときには一緒に行かせてもらってバターづくりとかいろいろさせてもらったりして、ソフトクリームの味が忘れられない。でもいつの間に行ったら、お仕事なのかな、今日は公開されてないのかなっていうことがあって、すごくずっと残念な思いがあったのです。 やっぱり教育とか子育てとか全部繋がっているの、観光にも繋がっているし、池田牧場さんの仕事の邪魔にならないような、何か市内の小学校はみんな行って体験できるとか、サマーキャンプみたいなので体験させてもらおうとか、子供にとってもいいし、子育てにとってもいいし、それが観光にも繋がったり、産業にも繋がったり、府中といえば池田牧場のソフトクリームっていうのにも。 どこ行ったら食べられるのだろうと、私もずっと長年思っているの、今日はぜひこれだけでも、行政

	関係なくてもすぐ実現できることがありそうだし、行政にバックアップしてもらえれば、例えば教育委員会とか、ますますいいと思います。個人的な願いですが実現したいです。
議長 (渡邊委員)	小川委員に直接交渉していただければ、結構動くのではないかなと思います。
高橋委員 (観光)	最近、思うことがありまして、府中市がいろんな事業を進めていかれる上で、〇〇のまち府中市っていう代名詞が最近増えてきたのです。これはこれで総合的にいいことだと思うのですが、市民の方或いは市外の方に、府中市はどんな町なのかって打ち出していくときに、やっぱり代表的な、一押し的なイメージづくりというのが必要なかなと思っています。 例えばですけど、福山市だったらバラのまち福山。すると大体こうイメージが沸きますよね。逆に言えば他にはないのかって思うのですが、他町からすると。そういったところも含めてですね、優先順位ではないのですが、代表的なイメージづくりをもっと打ち出してって、まずやっぱり市民の方がもっと理解をしながら育てていく、市外の方も伝えていくという形を作った方がいいのかなというようにも思います。私の中では、私なりのランキングはありますが、府中市全体と見て、どうなのかなというのがちょっと気になるところなんです、いかがでしょうか。
議長 (渡邊委員)	多分、いろいろなものがあると思うので、そういう市民投票やってみても面白いじゃないかなと思うのですが、あなたにとって、府中の自慢は何ですか、〇〇な府中に入る言葉をあげてくださってというのは、ワークショップであると盛り上がりそうな気がするので、ぜひともそういうことから始めて、みんなでこう〇〇を決めていくっていうのはすごくいいじゃないかなっていうふうに思いましたし、そういうのっていろんな町の将来を考える、或いは議論するいいきっかけになると思いますので、ぜひともそういうのはいいかなと私も思います。
〇まとめ	
議長 (渡邊委員)	まず一つ目は、今日非常にいい議論ができたと思っていて、なぜかと思ったら、皆さん現場感覚だったり地元の声だったり、そういったところから今回評価をいただけたというのが非常によかったと思います。そういう意味では、ぜひともこの評価の場を継続的にできればと思ったのがまず 1 点目でございます。 それから 2 点目は、今日非常に事務局の方としては、こういうところがうまくいってないみたいところで謙虚な発言があったのですが、途中でも言いましたけども、成功例の共有っていうところも大事なのではないかなと思っています。ポジティブに伸ばす評価をするっていうことも大事だと思いますので。もちろんうまくいってないところについてはどうすべきかということもありますけど、うまくいっているところはもっともっと頑張ってもらうような、そういった評価が必要じゃないかと思いました。 それと関連して 3 点目ですが、かなり目標を超えているプロジェクトがあって、イコーレだとか子育てステーションだとか、ドローンのイベント参加者だとか、こういったところはぜひとも目標をより高いところに設定してもいいのではないかと思いますので、どんどん上を目指していただければと思ったところでございます。 それから 4 点目は皆さんの方から結構出てきた事業間、部局間、官民間の連携ってことです。特にうまくいってないプロジェクトをどうしていかなければならないってすごく重要な課題ですけども、そこはその担当課だけで悩むのは厳しそうだという気もします。例えば、移住政策と就業をセットで考えるだとか、インターンシップと観光をセットで考えるだとか、ドローンと獣害対策をセットで考えるだとか、結構いろいろと何×何とかがたくさんありそうな気がします。 さきほども池田牧場×観光、池田牧場×教育、池田牧場×産業、池田牧場×DX だとか、いろ

	いろいろありそうなので、そういった連携でもっともっと伸ばしていくことができるのではないかと思います。 最後５点目は、さっきの「○○といえば府中」じゃないですけども、市の強みを生かすということに、やっぱり取り組むべきだと思ってまして、個人的に僕は○○っていうものづくりかなと思っているのですけれども、ものづくりって言っても別に機械金属製造とか、いわゆるハード的なものだけじゃなくて、食品もあるし、靴もあるし、多分いろんなものづくり、家具もあります。 そういった意味では総合ものづくり都市じゃないですけども、そういうような都市を府中のイメージとして持っていますので、そういった強みにＤＸをかけたりだとか、教育とかけたりだとかそういったことで伸ばしていく、新しい府中を作っていくことが、冒頭に、今大変になっている人口減少だとか或いは若者を呼び込むだとかへ繋がっていくのではないかなと思いますので、是非ともその辺を取り組んでいただければと思ったところでございます。
○副市長挨拶	皆様には２時間に渡りまして、非常に活発な意見交換をしていただきまして、大変ありがとうございます。本当に参考になる意見がたくさんあって、もう１時間聞いてもいいかなという感じで聞いておりました。議長の渡邊様におかれましては最後を綺麗にまとめていただきまして本当にありがとうございます。 こういった形でＰＤＣＡをまわしながら、事業を進めております。今聞いていまして行政は多岐にわたる分野で、たくさんすることがあると思っております。 皆さんからいただいた意見を元に、ＰＤＣＡの特にチェック、アクションのところの意見をたくさんいただいたと思いますので、それを生かしてまいります。その中でも特に、連携をしていくということの一つのキーワードとして、観光の面でも他の市や町と連携しながら、そういった視点を持って成果を出していくということを職員全員で感じながら進めていきたいと思いますので、今後とも市政の推進にご協力をいただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。